

100 問集編集余話

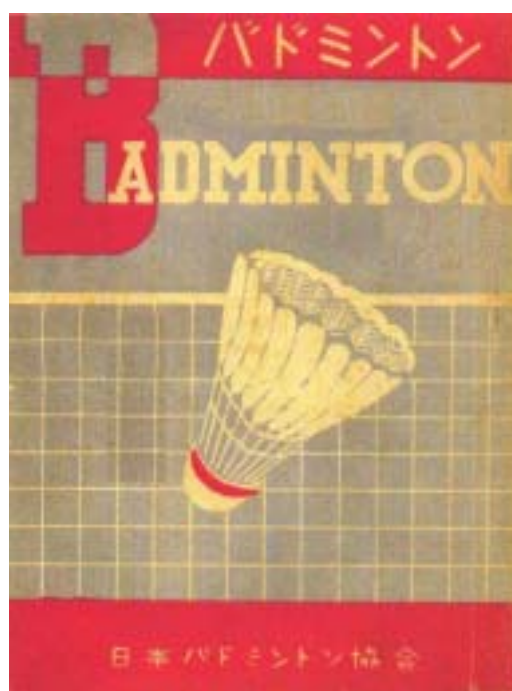
1 我が国の競技規則書改訂の歴史

我が国最初の「競技規則書」は、日本バドミントン協会が創設された3年半後の1949年（昭和24年）4月に世に出ました。大きさは現行の競技規則書と同じB6版（18.2 cm × 12.8 cm）でした。表紙のデザインは左のとおりで、着色は上下に赤色の帯、シャトルとネットは白で、背景色は紫でした。そして、「試合規則」はIBFが1939年に制定したものを翻訳して、21の条と解説で作られています。項目を書き出してみますと次のとおりで、骨子は現行のものほとんど変わらないことがわかります。

目次は次のとおりです。

コート ポスト ネット シャトル
プレーヤー トス スコアリング
ダブルスプレー シングルスプレー
フォルト 一般規定 解説

その後、半世紀に亙って競技規則書は毎年発行され、IBF（現BWF）のルール改正に合わせて、一部改訂されて来ました。主な改訂の内容を、規則書の表紙の色と大きさを合わせて年表にしてみました。



年度	表紙の色	大 き さ	改 訂 の 内
1950	紺・薄緑	18.2 cm × 12.8 cm	
1951	赤	18.2 cm × 8.3 cm	シャトルの台と羽根が同時に打たれた場合、シャトルがラケットの縁で打たれた場合はフォルト
1955	赤	15.0 cm × 10.6 cm	5分以内の休憩
1960	上黒下白	15.0 cm × 10.6 cm	審判用語 1～35
1961	薄クリーム	15.0 cm × 10.6 cm	
1966	薄緑と白	15.0 cm × 10.6 cm	第2と第3ゲーム間に5分以内のインターバル
1969	赤	15.0 cm × 10.6 cm	フレームショットはフォルトでない
1972	赤、緑	15.0 cm × 10.6 cm	アバブザハンドの図 プレーヤーの定義
1980	赤	15.0 cm × 10.6 cm	サービスの始まり
1982	赤	15.0 cm × 10.6 cm	羽根打ちサービスはフォルト
1983	赤	15.0 cm × 10.6 cm	警告

1984	赤	15.0 cm × 10.6 cm	ラインの色が白・黒から白・黄に アバブザハンドの図を割愛 セッティングがセティングに 障害者のバドミントン
1985	エンジ	15.0 cm × 10.6 cm	
1986	縁白中赤	15.0 cm × 10.6 cm	ラケットの規定
1987	縁白中赤	15.0 cm × 10.6 cm	サービスの打ちそこないはフォルト
1988	縁赤中白	15.0 cm × 10.6 cm	用具の検定 アバブザハンドの図復活
1989	赤白抜き	15.0 cm × 10.6 cm	試合中の助言の禁止
1997	赤白抜き	15.0 cm × 10.6 cm	ラケットの項
1999	赤白抜き	18.2 cm × 12.8 cm	セティング 90秒を超えないインターバル 付録1～4 付則(障害者のバドミントン)
2000	赤白抜き	18.2 cm × 12.8 cm	ラケットのフレーム 第1と第2ゲームの間に 90秒以内のインターバル 障害者のバドミントン全面改訂
2002	赤白抜き	18.2 cm × 12.8 cm	LS、LDの標記をWS、WDに替える 線審のOUTの合図は手の平を下に向ける
2004- 2005	赤の上に 黒	18.2 cm × 12.8 cm	定義にラリーが付加 線審のOUTの合図は手の平を前に向ける
2006- 2007	赤白抜き	18.2 cm × 12.8 cm	定義にストロークが付加 ラリーポイント制と 21点3ゲーム採用 ハンドのフォルトなくなる 11点で60秒以内、ゲーム間で120秒以内のイン ターバル インプレーでないときの助言OK コーチ席

バドミントンと長く関わって来た人たちにとって、ルール改訂の変遷は懐かしいことと思います。

また、過去の競技規則書は「赤本」と言われて親しまれてきましたが、年表からかならずしも、「赤本」ばかりでなかったことを確認することができます。

なお、「大会運営規程」は1953年(昭和28年)に「大会運営規定」として、「公認審判員規程」は1964年(昭和39年)に「審判員心得」として採択されていたものが、1986年(昭和61年)に標記が変わったことを付記しておきます。〔完〕